

日本の子供たちの自己肯定感が低い現状について

(文部科学省提出資料)

※第38回教育再生実行会議(平成28年10月28日)の参考資料2

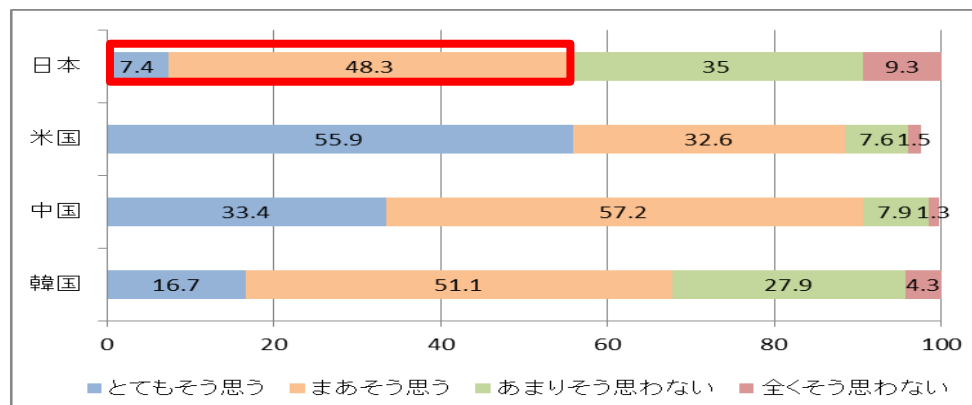
目次

○「高校生の生活と意識に関する調査」における国際比較……………	2
○「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」における国際比較……………	3
○「青少年の体験活動等に関する実態調査」における自己肯定感の経年比較……………	4
○「全国学力・学習状況調査」(H28)における自己肯定感の経年比較……………	5
○文部科学省における検討体制……………	6
○既存の調査結果の分析からみる自己肯定感の要因分析……………	7

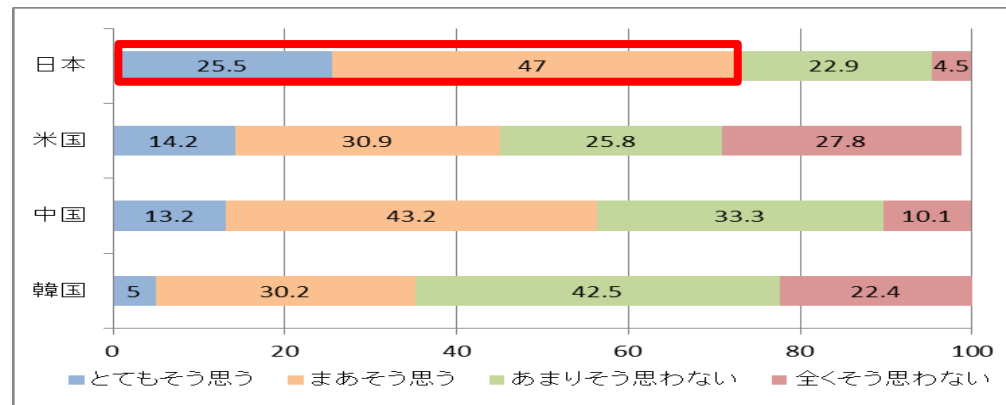
「高校生の生活と意識に関する調査」における国際比較

○ 日本の子供たちの自己肯定感（自分に対する肯定的な意識）は諸外国に比べ低い状況であるが、前回調査に比べると肯定的な回答が増加し、否定的な回答が減少している。

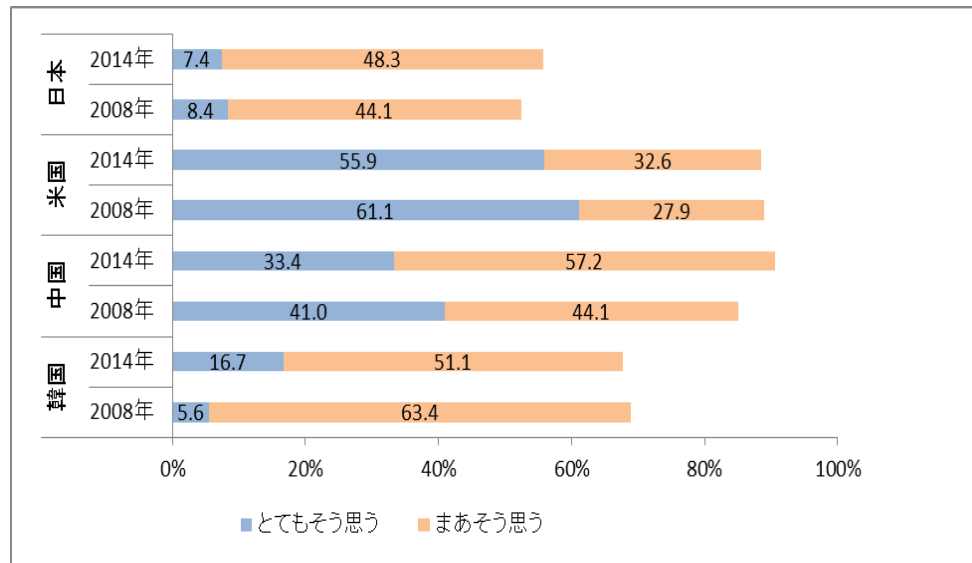
●私は人並みの能力がある



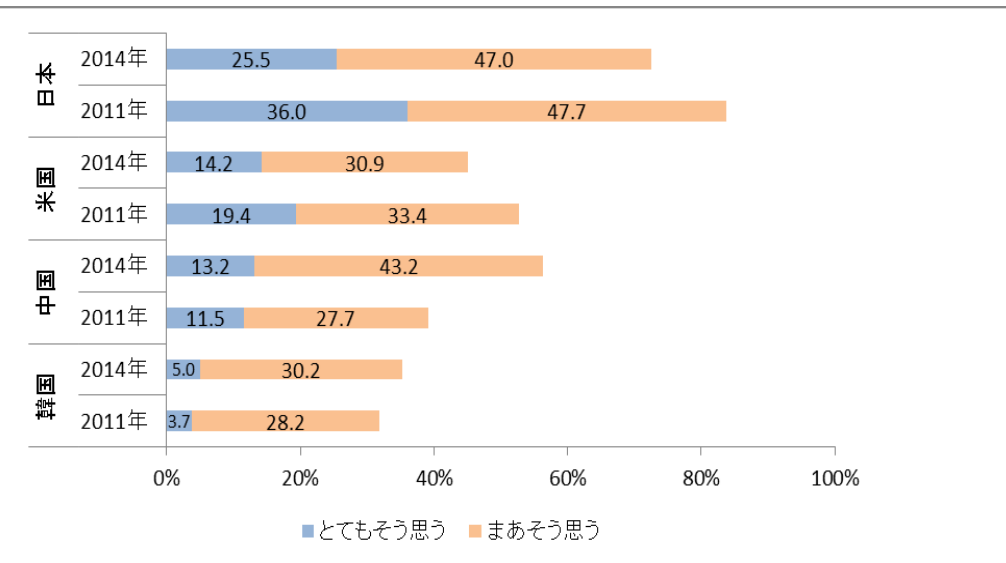
●自分はダメな人間だと思うことがある



●私は人並みの能力がある



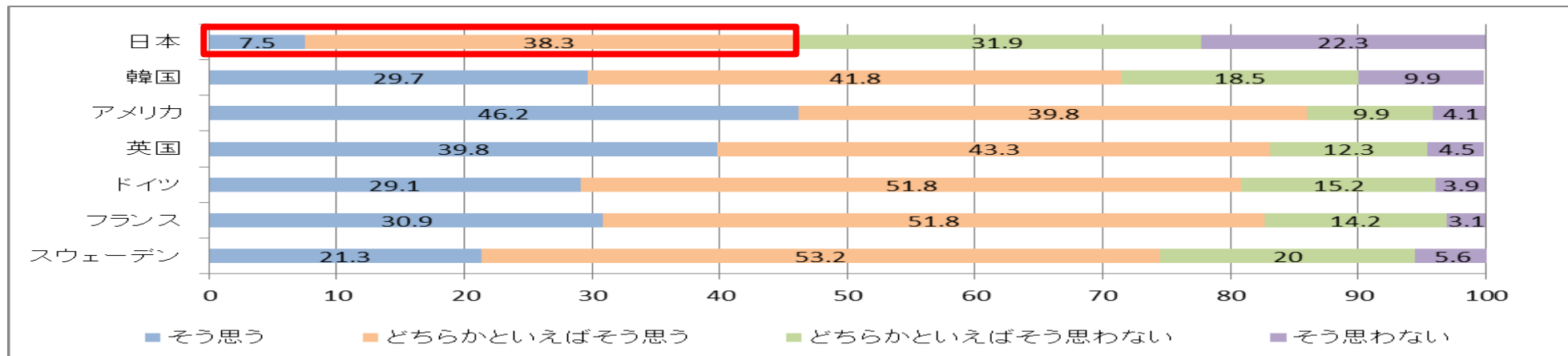
●自分はダメな人間だと思うことがある



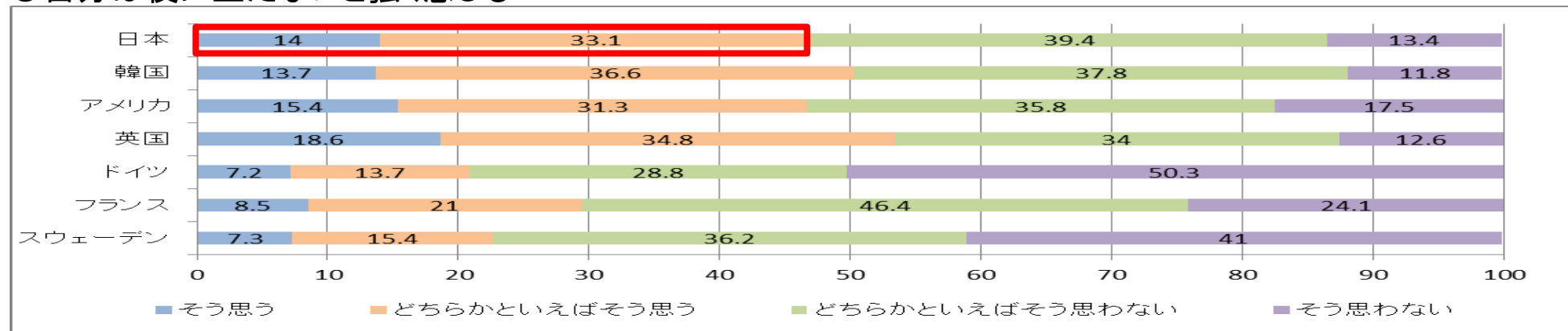
「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」における国際比較

- 日本の子供たちの自身への満足感は諸外国に比べて低い。
- 「自分は役に立たないと強く感じる」子供たちの割合は諸外国と比べて、必ずしも低い状況ではない。

●私は、自分自身に満足している

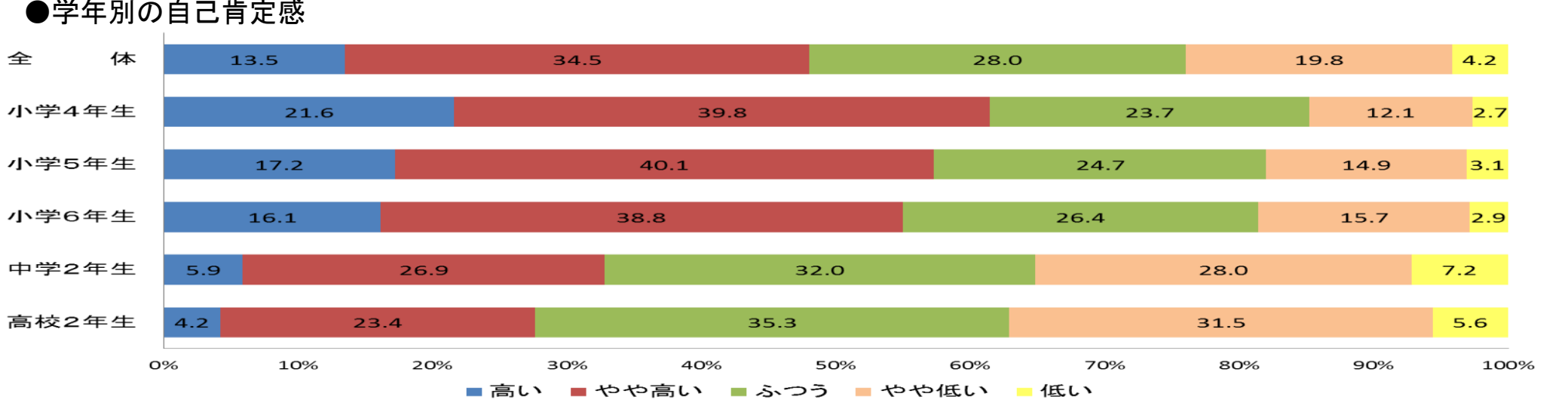
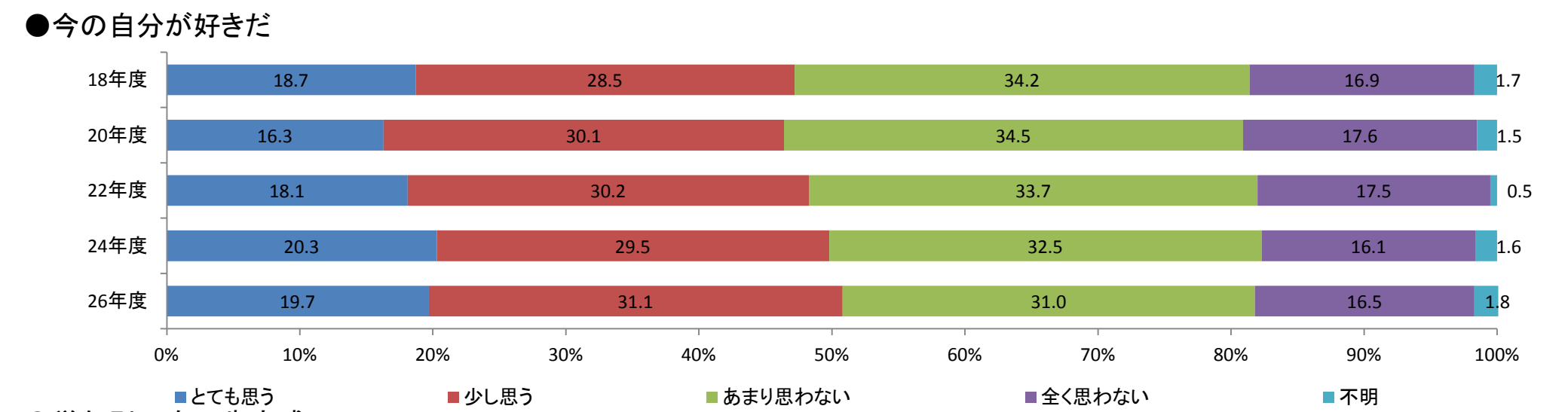


●自分は役に立たないと強く感じる



「青少年の体験活動等に関する実態調査」における自己肯定感の経年比較

○国内調査の結果においては、自己肯定感に関する項目について、肯定的な回答が微増しているが、学年があがるほど、肯定的な回答が減少している。



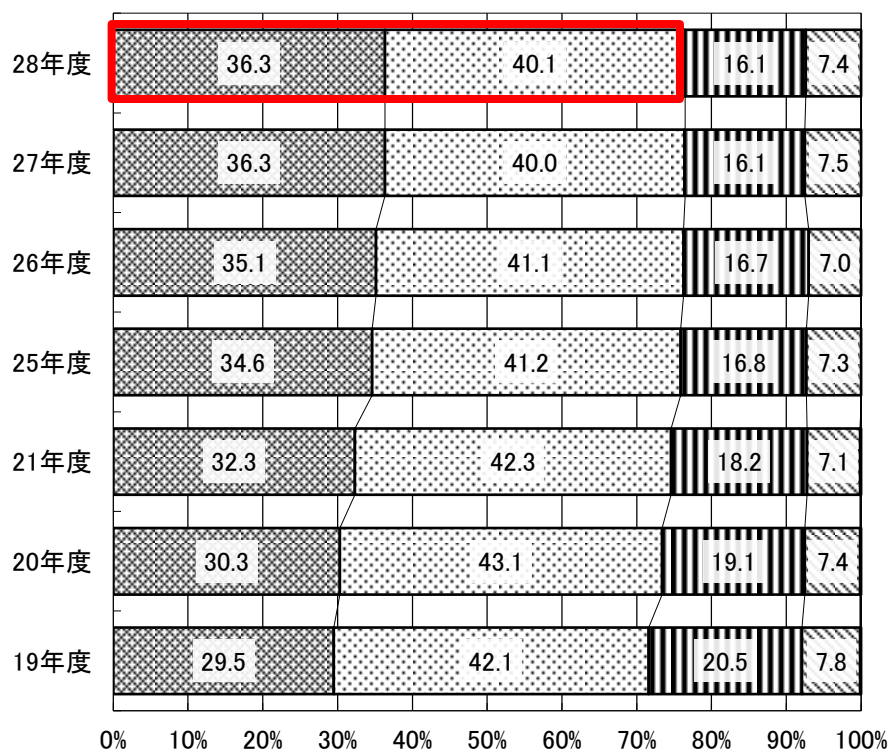
「全国学力・学習状況調査」(H28)における自己肯定感の経年比較

○ 自己肯定感に関する項目について、小学校第6学年、中学校第3学年では、6割～7割の児童生徒が肯定的な回答をしている。

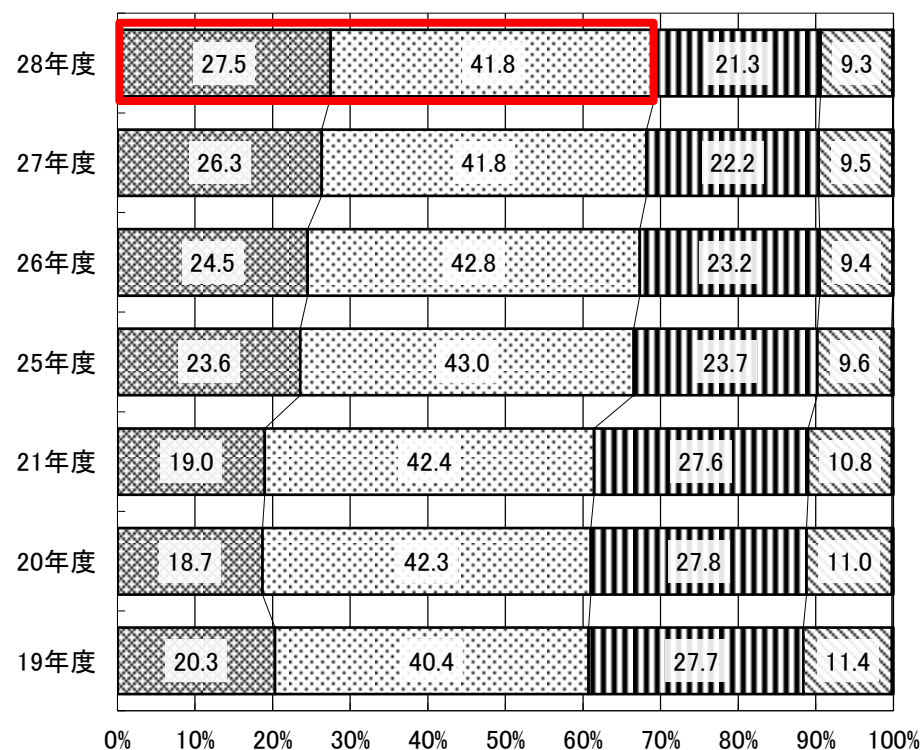
● 自分には、よいところがあると思いますか。



小学校第6学年



中学校第3学年



我が国の子供の意識に関するタスクフォース

主査：田野瀬 太道 文部科学大臣政務官

【趣旨】

諸外国と比べ、我が国の子供たちは、学力がトップレベルであるにもかかわらず、自己に対する肯定的な評価（自己肯定感）が低い状況にある。

将来の日本を担う子供たちが、自分の価値を認識して、相手の価値を尊重するとともに、リラックスしながら他者と協働して、自分の可能性に積極的に挑戦し、充実した人生を歩めるよう、我が国の子供たちの自己肯定感が低い要因を分析するとともに、必要な対応策を検討する。

【今後の予定】

平成28年内を目途に分析結果等を取りまとめ

→ 教育再生実行会議における議論へ

既存の調査結果の分析からみる自己肯定感の要因分析

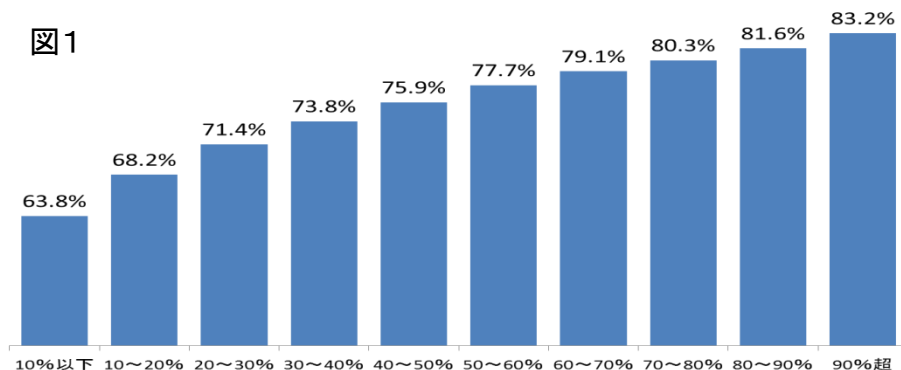
分析方法

各種調査における自己肯定感に関する項目（「自分には、よいところがある」、「今の自分が好きだ」等）と、学力、子供の意識、規範意識などの属性別項目とでクロス分析を実施。

分析結果① 学力と自己肯定感との関係

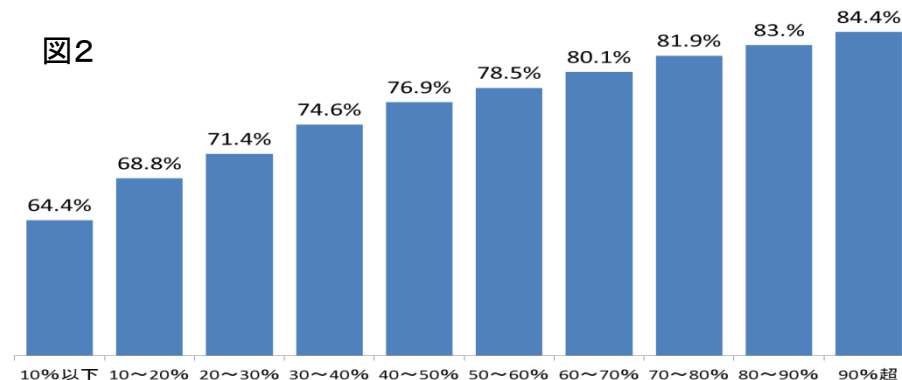
各教科の正答率が低い児童生徒ほど、「自分には、よいところがある」と回答した割合が低い。

図1



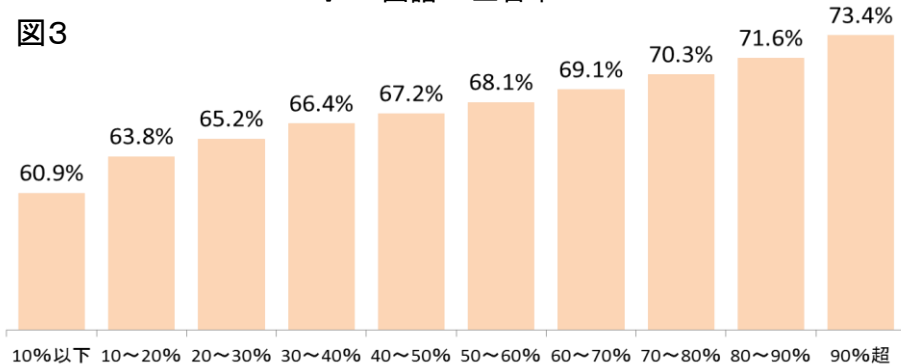
小6 国語B 正答率

図2



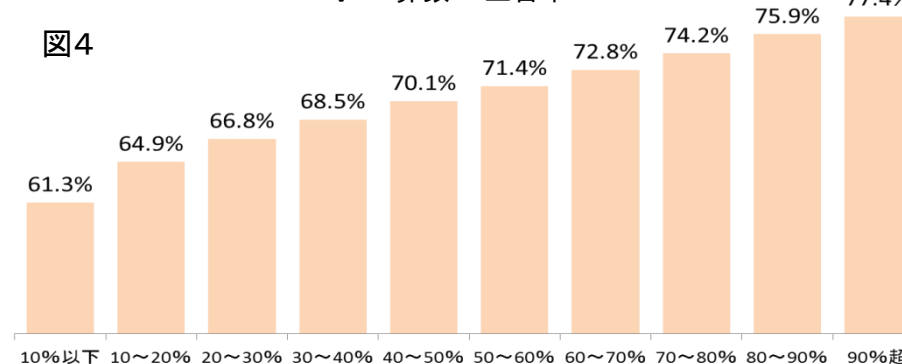
小6 算数B 正答率

図3



中3 国語B 正答率

図4



中3 数学B 正答率

※ A問題(主として知識に関する問題)においても同様の傾向がみられる。

※ 平成28年度全国学力・学習状況調査(文部科学省)の結果から作成

分析結果② 達成感、意欲等に関する子供の意識と自己肯定感との関係

達成感を感じたり、意欲的な意識等が低い児童生徒ほど、「自分には、よいところがある」、「今の自分が好きだ」と回答した割合が低い。

図1

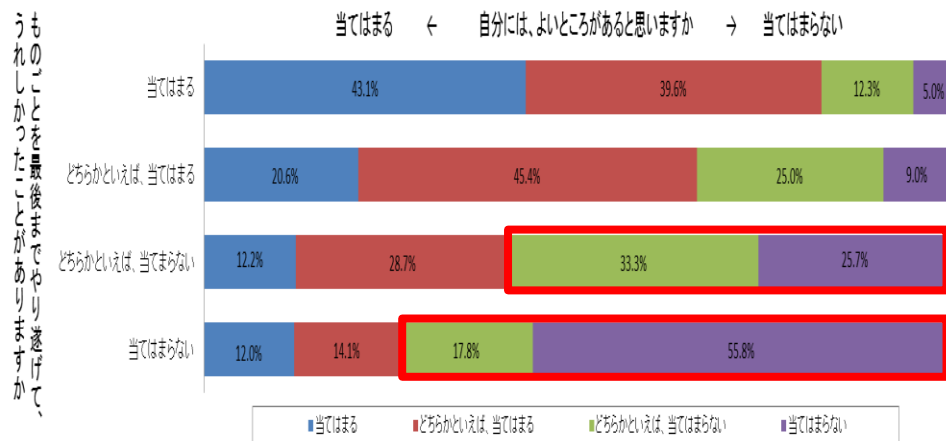


図2

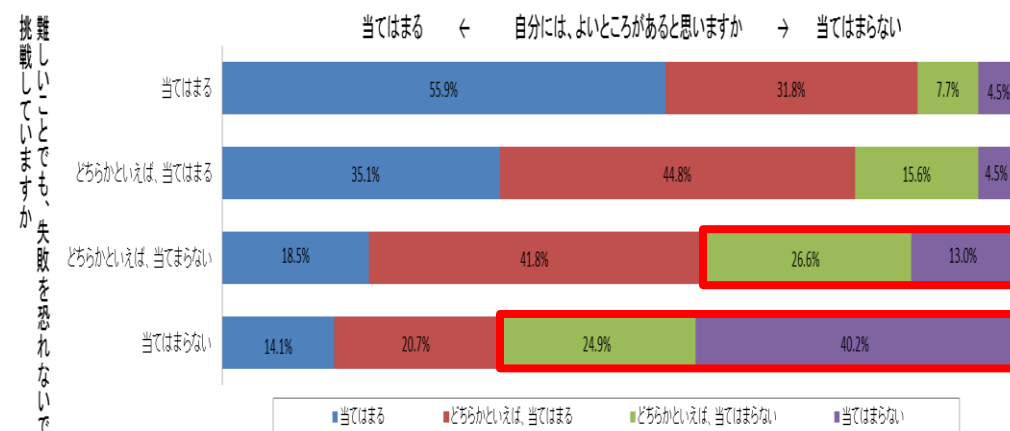


図3

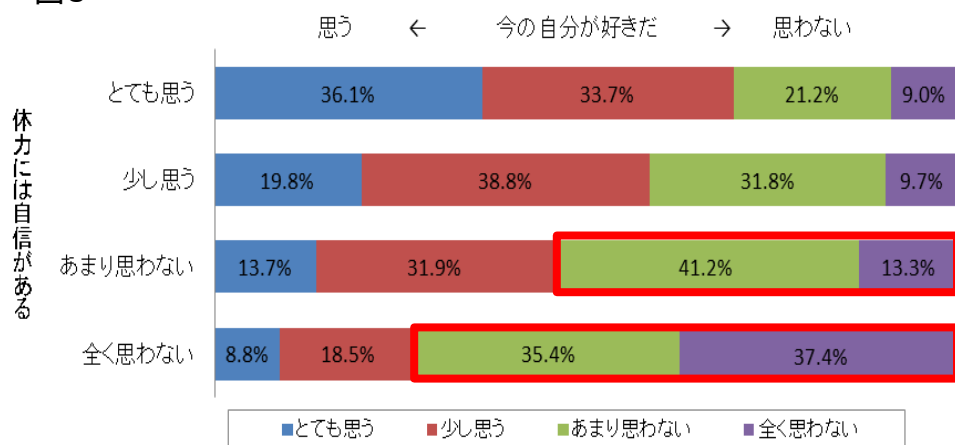
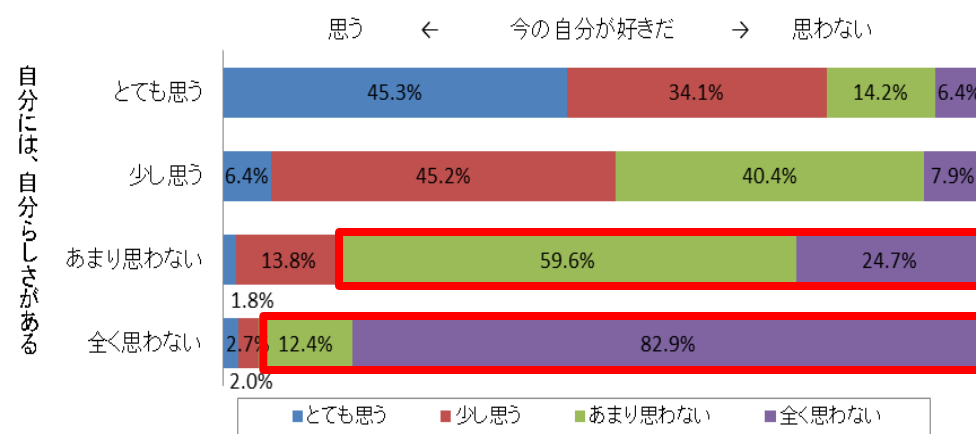


図4



※ 図1、2は平成28年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)、図3、4は「青少年体験活動等に関する実態調査」((独)国立青少年教育振興機構)から作成

※ 図1、2は小学校第6学年における分析結果を示しているが、中学校第3学年においても同様の傾向がみられる。

分析結果③ 規範意識と自己肯定感との関係

「規範意識」が低い児童生徒ほど、「自分には、よいところがある」、「今の自分が好きだ」と回答した割合が低い。

図1

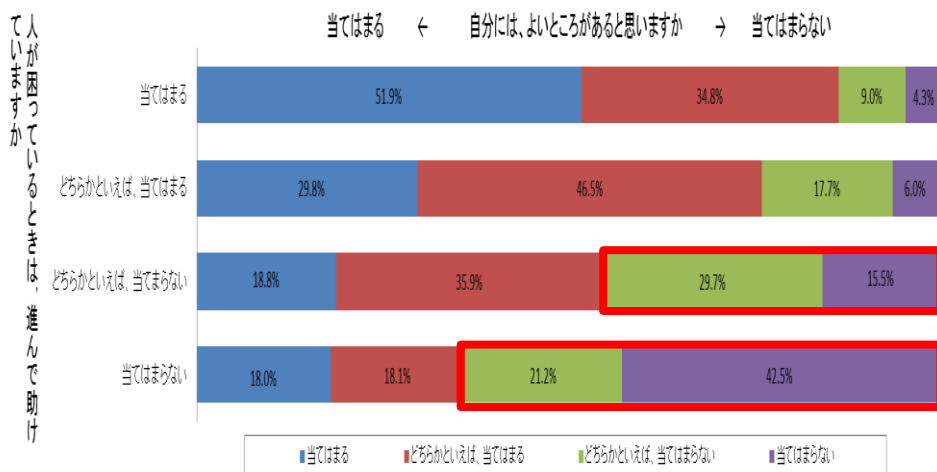


図2

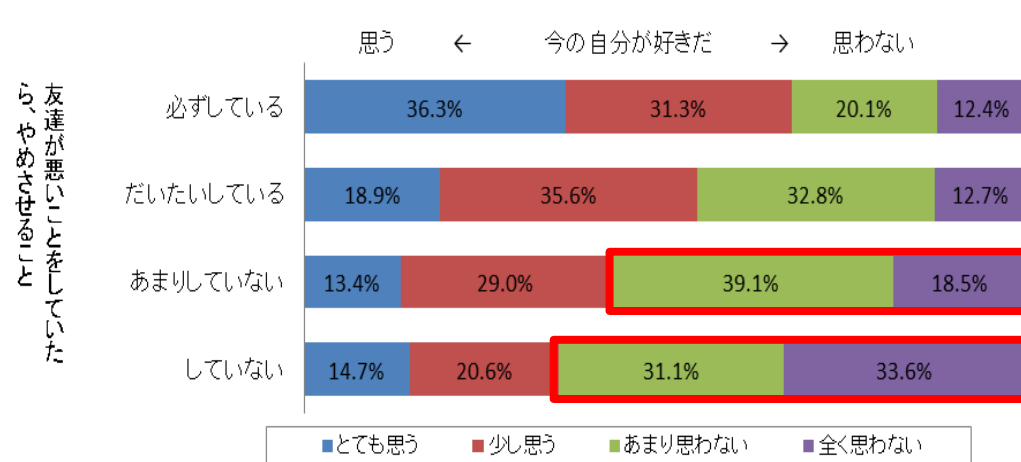


図3

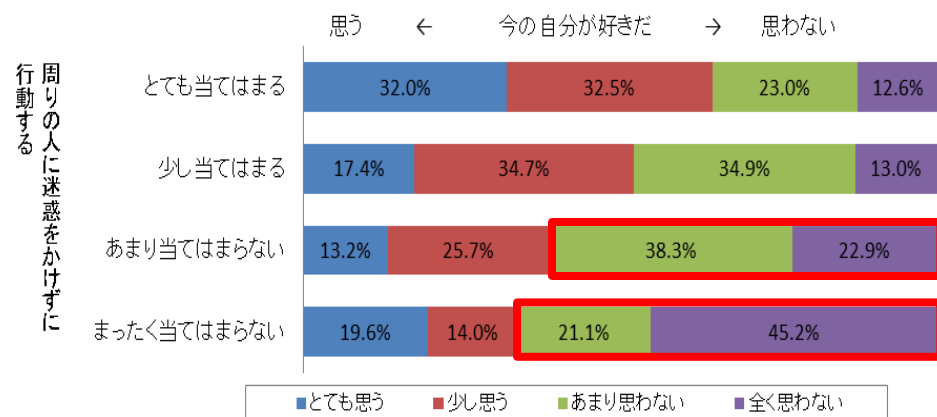
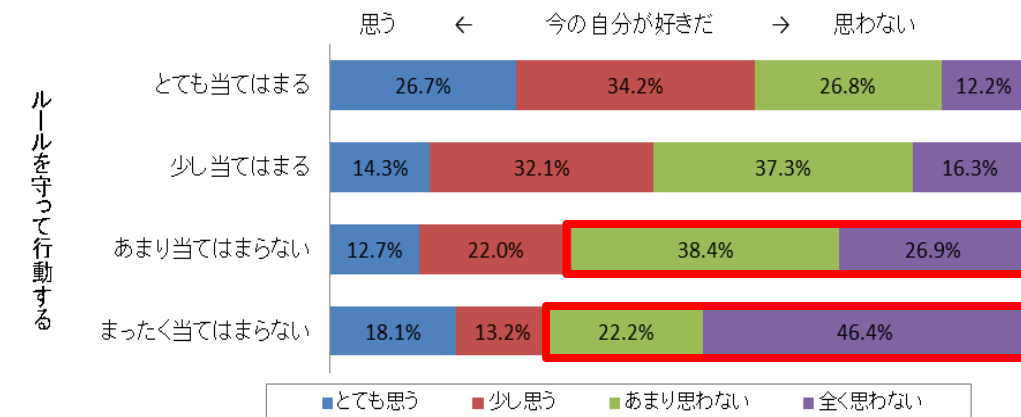


図4



※ 図1は平成28年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)、図2、3、4は「青少年体験活動等に関する実態調査」((独)国立青少年教育振興機構)から作成

※ 図1は小学校第6学年における分析結果を示しているが、中学校第3学年においても同様の傾向がみられる。

分析結果④ 自己有用感と自己肯定感との関係

自己有用感が低い児童生徒ほど、「自分には、よいところがある」、「私は、自分自身に満足している」と回答した割合が低い。

図1

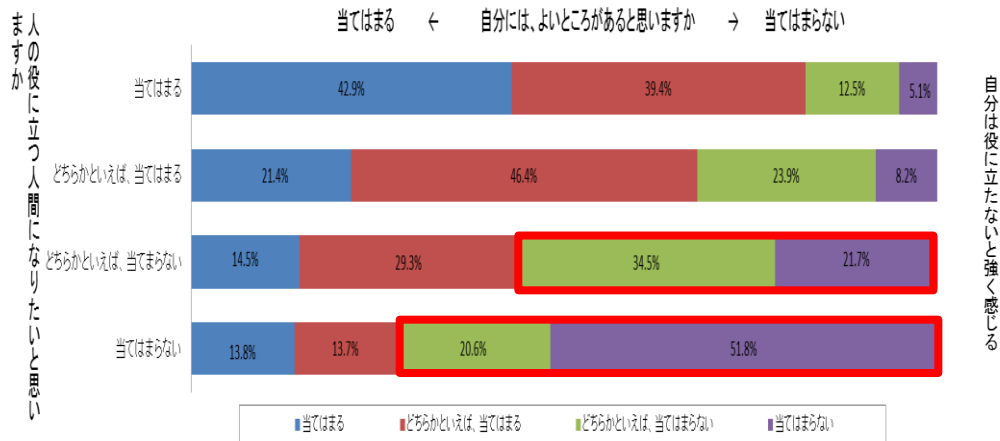
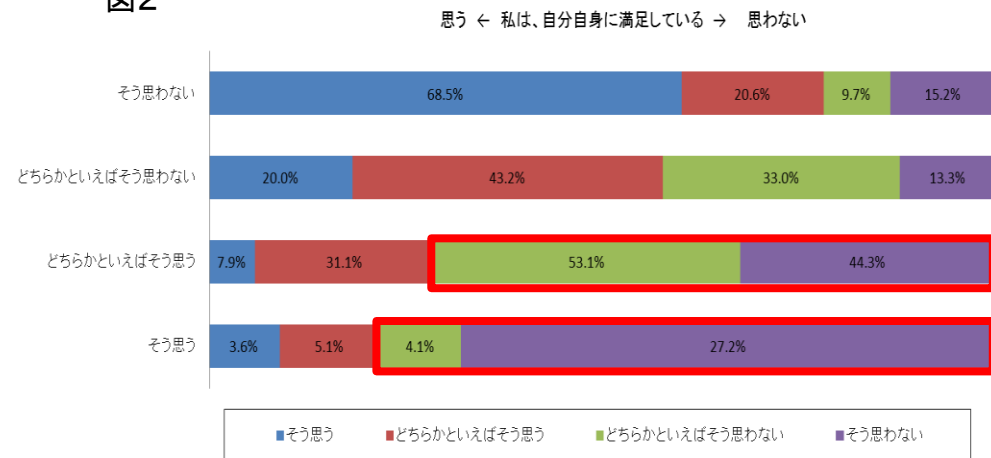


図2



分析結果⑤ 社会・地域に対する意識と自己肯定感との関係

社会・地域に対して否定的な意識を持つ生徒ほど、「自分自身に満足している」と回答した割合が低い。

図3

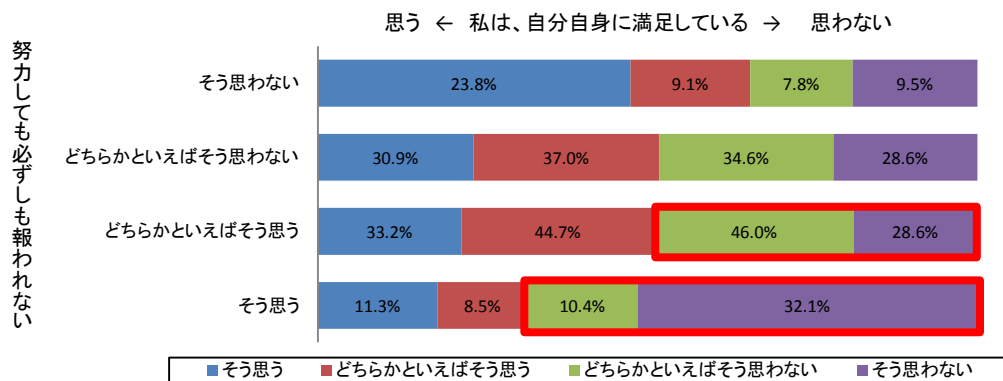
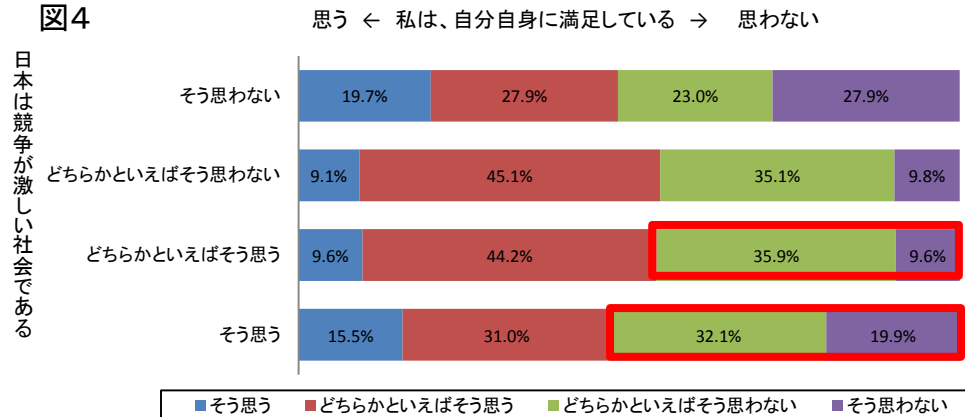


図4



※ 図1は平成28年度 全国学力・学習状況調査(文部科学省)、図2は、「高校生と生活と意識に関する調査」(独)国立青少年教育振興機構)、図3、4は「我が国と諸外国の若者の意識に関する調査」(内閣府)から作成